



**14751 フレスコ粉** ----- **¥330 ¥300**  
 材質：石灰粉（165g）

フレスコ画以外にも、タイルやビーチグラスなどを用いたモザイク作品の制作にも使用できます。フレスコ描画用、フレスコ粉 165g に対して水 60g モザイク用には、フレスコ粉 165g に対して水 75g の割合で溶いて使用して下さい。

**14752 粉末顔料 7色セット** -- **¥1,540 ¥1,400**  
 容量：赤、緑、茶、黒、白 → 各 10g  
 黄、青 → 各 5g

**14741 スチレンボード** ----- **¥132 ¥120**  
 サイズ：200 × 150 × 20mm



1. スチレンボードにプライマーを刷毛や大きめの筆などで塗ります。



2. フレスコ粉を水で溶いて（フレスコ粉 165g に対して水 60g）つくった石灰泥を、こてかパレットナイフで、完全に乾燥まで、約 1 日かかります。スチレンボードに厚めに塗ります。（すぐにでも制作できますが、最も描きやすいのは、表面が半乾きの状態に。）



3. 顔料を水で溶き、水彩画のような感じで着色します。石灰泥を、こてかパレットナイフで、完全に乾燥まで、約 1 日かかります。スチレンボードに厚めに塗ります。（すぐにでも制作できますが、最も描きやすいのは、表面が半乾きの状態に。）



本製品は、1～2 時間の間に十分に描写可能であることを目的に設計されています。

下地材にプライマー（ジェッソやビッグアートカラー用のプライマーで可能）を塗布し、その上にフレスコ粉末を水で溶いてつくった石灰泥をこてかパレットナイフで塗ります。手間のかかるフレスコの下地作りを簡単に行なうことができます。（共同制作にも可能）石灰は、純正の石灰で、真性のフレスコ壁画の使用にも十分に耐えうる高品質の材料です。長い歴史と伝統をもつフレスコの技術の一端に触れていただき、その時代の作品を鑑賞するときの理解の一助になればと思い、この商品を開発しました。



**片面粘着パネル A4 判**

**14660** ----- **¥385 ¥350**  
 サイズ：295 × 210 × 5mm

発泡スチロール板に粘着が付いています。

下絵を描き、カッターで切り込みを入れ、色砂を乗せたい部分の剥離紙をはがし、色砂をふりかけます。



色鮮やかな砂絵用の砂です

**砂絵**

**71050～7** ----- **各 ¥440 ¥400**

- 71050 赤      71051 オレンジ      71052 黄
- 71053 青      71054 黄緑              71055 緑
- 71056 白      71057 黒

容量：各色とも 100g（ポリ容器入り）

色鮮やかな砂絵用の砂です。アラビックボンドを使用しながら部分的に制作したり、専用パネルを利用してシャープな図柄の砂絵の制作をすることができます。共同制作にも向いています。



**モコモコ砂絵のお皿**

**71059** ----- **¥748 ¥680**

砂（赤、青、黄、緑、黒、白）各 1 袋（約 25g）  
 皿（φ 168mm）1 枚、水差し容器 1 個、ニス 3 本、皿立て 1 個

**普通の砂絵じゃない！？**

水を入れて袋の中で混ぜるだけ。従来の砂絵と違い、モコモコと浮き出た砂絵皿に仕上がります。6 色セットなので幅広く表現できます。砂は乾くと固くなり、お皿を立てても絵が落ちることはありません。



**京土 5 色セット**

**14755 各 50g5 色セット** ----- **¥1,100 ¥1,000**

<セット内容>

- 京錆土      稲荷山黄土      黒聚楽土      本聚楽土      京浅黄土

古くから日本建築で使われている京土です。

水と加えドロドロにし木工ボンドを混ぜると絵具として使えます。紙染めに使用したり、粘土に混ぜたりいろいろ用途で使用できます。

自然の色で楽しみましょう。アイデア次第で使い途は無数です。



京錆土      稲荷山黄土      黒聚楽土      本聚楽土      京浅黄土

**1. 塗料として**

土を顔料にして、木工用ボンドを薄めて絵の具にして絵を描いてみよう。水に溶かして固めればクレパス、クレパスを砕いて蜜ロウを混ぜて固めればクレヨンになる。

**2. 染料として**

土を染料にして、紙をすいて作る時に染料として混ぜます。

**3. 材料として**

ミニチュア土壁にチャレンジしよう。砂とスサと糊を入れて土壁を作ってみよう。



- 京錆土**      京都の伏見深草で採れる赤土です。
- 稲荷山黄土**      京都の伏見深草で採れる黄土です。
- 黒聚楽土**      京都市内で採れる黒土です。
- 本聚楽土**      京都の聚楽台跡付近で産出する土ですが、聚楽台跡付近は今は建物が立ち採取出来ないの、伏見で採れる土をブレンドし本聚楽土を作っています。
- 京浅黄土**      京都の伏見深草で採れる青粘土です。

**土の色の違うわけ**

土の中の鉄の成分が色を決めます。鉄も酸素と結びつきやすい鉄と結びつきにくい鉄がある。酸素に結びつきやすい鉄は錆びてその土も赤系統になっていく。逆に砂鉄のような鉄を含む土は錆びないので灰色や青・緑色の土になっていく。

